

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 こどもみらい総合科)令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			英会話 I	日常の会話を英語で楽しむことができるようになる為に、基礎的な事柄を練習問題を交えて学ぶ。	1通	32		△	○	△	○			○	
○			健康科学	健康維持や体力向上に対するスポーツ活動の持つ教育的意義について説明することができる。	1前	16		○			○				○
○			情報処理入門 I	情報の意味とコンピューターの発達過程、ハードウェア/ソフトウェアについて概観する。	1通	36		○	△		○				○
○			日本国憲法	憲法が大切にしている原理・原則な何か、実現する為の政治の仕組みなどを体系的に学習する。	1前	30		○			○				○
○			幼児の心理学	心理学における様々な研究から得られた知見を学ぶことで、保育の実際の中で工夫や援助ができるようになる事を目指す。	1前	16		○			○				○
○			教育原理	教育の本質・意義・機能に関する理論的知識を習得し現代社会における教育の諸課題について考察する力を身に付ける。	1後	30		○			○				○
○			造形表現法 (指導法)	造形の基礎となる平面(デッサン、色彩)立体(動くおもちゃ、粘土)の作品制作を通し幼児の造形活動への理解を深める。	1通	32			○		○				○
○			児童文化	児童文化の歴史や現在の児童文化を取り巻く環境を学び、様々な児童文化財について、与え方や作り方を学習する。	1前	32		○	△		○			○	
○			社会福祉	現代における社会福祉の全体像を理解し、社会的に支援が必要な本人とその家族への具体的な支援の事例を通して社会福祉の全体像を理解する。	1前	30		○			○				○
○			社会的養護 I	福祉に欠ける児童の生存権、発達権を保障し、健全育成を目指すために、児童福祉施設に入所児童の対する社会的養護の基本的なあり方を学ぶ。	1通	30		○			○				○
○			幼児と言葉	言葉の発達の理解や指導について正しい考え方、導き方の根拠を与え、保育内容としての「言葉」を理解する。	1前	16		○			○				○

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 こどもみらい総合科)令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			幼児と人間関係	幼児期の発達の特徴と幼児教育・保育についての基本的な考え方、保育内容の領域「人間関係」の意義、人間関係の構築に必要な内容を理論的に学習する。	1前	16		○			○			○	
○			幼児と環境	乳幼児期に自然や様々な物に触れ、体験を積み重ねることで生きる力の基礎になる。「環境と関わる力」の発達や保育方法を学ぶ。	1前	16		○	△		○				○
○			教育課程総論	教育課程・保育計画の基本的な考え方、子どもの発達や遊び等の基礎の理解を通して教育課程、保育計画の編成や作成の方法を把握する。	1通	30		○			○			○	
○			生涯スポーツ	幼児期、青年期における運動・スポーツの意義や果たすべき役割を理解し障害者や高齢者を対象とした運動スポーツ活動のレパトリーを増やす。	1後	16			○			○			○
○			幼児と音楽表現	子どもに歌い聴かせるための声楽の基礎(発声法)を学び、保育の実際の中で工夫が出来るようになる事を目指す。	1後	16			○		○				○
○			教育心理学	心理学における様々な研究から得られた知見を演習を通して学ぶことで、保育の実際の中で工夫や援助ができるようになる事を目指す。	1前	16		○	△		○				○
○			人間関係(指導法)	「人間関係」に関する教育・保育内容および指導に関する知識技術を習得し、子どもの理解を深める。	1前	16		○	△		○				○
○			音楽表現(指導法)	音楽表現の理論及びリズム理論の学習を中心に、各種分析法と表現法の理解を深め、実践演習(分析結果による演奏)を行う。	1後	16			○	△	○				○
○			環境(指導法)	激変する社会環境で子ども達の生きる力を培うために、自然体験、社会体験などの具体的生活体験を重視した保育の実践的指導能力の育成を目指す。	1後	16		○	△		○				○
○			言葉(指導法)	言語について基礎知識・技術を習得し、児童文化財に関する基礎知識の習得及び遊びを通して、表現力を育む保育活動を構想・実践する。	1前	16		○	△		○				○
○			劇遊び(指導法)	福祉・保育に関する知識・技能を活用し演劇をチームで作成する事により、これからの保育現場で更に発展させていく力を養う機会とする。	1前	16			○	△	○				○

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 こどもみらい総合科)令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ピアノ演習 I	初心者から経験者まで個々に合った指導を実施し、両手で弾き歌いができるような実技指導を行う。	1通	145			○		○			○	
○			パソコン演習 I	保育現場でもOA機器の活用がある為、タッチタイピングの習得と日本情報処理検定協会主催日本語ワープロ検定合格を目指す(任意受験)	1前	44			○		○				○
○			基礎実践 I	一般的なビジネスマナーの習得とコミュニケーションスキル向上、自己PRができることを目指す。	1通	30		△	○		○		○		
○			志学 I	周囲との協働を保ちつつ、使命感を持って行動できる”自立心”を育成し、与えられた人生に感謝しながら高い志をもって歩む力の必要性に気付く事を目的とする。	1前	20		○	△		○		○		
○			保育研究 I	絵本、紙芝居などの読み聞かせやエプロンシアターなどの製作・実演を通して保育技術の習得を目指す。	1通	129			○		○		○		
○			実習指導 I	実習事前学習として、子どもの成長発達や発達課題、保育内容、保育実践の方法を学習し、保育実習準備を行う。	1通	18		○	△		○		○		
○			実務研究 I	保育園インターンシップ・障が者施設インターンシップ・他校コラボ授業や学習発表会の実施時間として設定する。	1通	36				○	△	○	○		○
○			総合学習 I	「豊かな人間性」を育むため、学内外の様々な授業や行事を通して協調性・思いやり・気配り・積極性・感謝など自身の体験を通して身につける科目として位置付ける。	1通	172		△	○		○		○		
合計				単位時間		1,084			時間						
○			子ども家庭福祉	子どもと家庭に関する幅広い内容を学習し、保育者として子どもの最善の利益をはかる為の基礎的な知識を習得する。	2前	30		○	△		○				○
○			保育原理	保育の意義、保育所保育指針における保育の基本、保育の内容と方法、保育の思想と歴史の変遷について基本的な内容を理解する。	2前	30		○			○				○

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 こどもみらい総合科)令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			子ども家庭支援論	地域社会や親族、家族が果たしてきた役割、機能は何か。子どもを取りまく社会環境を点検し、これからの家族のあり方、役割を考える。	2通	30		○			○			○	
○			幼児への特別な支援	特別支援を必要とする幼児(知的障害、発達障害、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害等)の心身発達と心理的特性及び学習課程を理解する。	2前	16		○			○				○
○			子ども家庭支援の心理学	家族、家庭の意義や機能を理解し、親子関係や家族関係等について発達的に理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。	2通	30		○			○				○
○			子どもの食と栄養	小児の発達・発育の特性、栄養に関する基本的な知識を踏まえ、小児期における心身の発達段階に応じた栄養法、食生活、集団給食、食育の重要性を理解する。	2通	36		○		△	△	○			○
○			教育相談	子どもの心の成長やつまづき、保護者への支援に関しての理解を臨床心理学的視点から深め、子どもや家庭への支援の基礎を学ぶ。	2前	30		○			○				○
○			教職概論	教職・保育職の意義や役割、職務内容の基本的理解を通して、保育者には何が求められるのか自分なりの見識を有することを目標としている。	2通	30		○			○				○
○			教育方法論	乳幼児期の教育(保育所・幼稚園・認定こども園)現場における教育の方法の基本原則を知識として習得し、遊びを中心とした実践へとつなげていく。	2前	30		○			○			○	
○			健康(指導法)	子どもにとって望ましい遊びと、家庭・園・地域社会の生活の過ごし方を見直し、優れた理論を実践化していく。	2後	16		○				○			○
○			教育実習事前事後指導	幼稚園の機能や内容、教育実習の目的や意義を理解し、習得した知識・技能を保育実習だけでなく教育実習に対する意欲や課題意識へと移行させ実習準備を行う。	2後	8		○	△		○				○
○			音楽表現技術	「幼児と音楽表現」を基に、より実践的な歌唱法、ピアノ演奏法、伴奏法、表現法を習得し、弾き歌いのレパートリーを増やす。	2後	16			○		○				○
○			幼児と造形表現	豊かな創造性を育み、必要な援助と成長を見守れる保育者の育成と実践的教育指導の習得を目指す。	2前	16		△	○		○				○

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 こどもみらい総合科)令和4年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			幼児と健康	保育者として必要な運動あそびのレパトリーを増やすこととバリエーションの広げ方を理解し、運動あそびの指導に必要な保育技術を学ぶ。	2後	16			○		○					
○			障害児保育	子どもの心身の発達及び脳の発達について理解を深め、子どもの知的・情緒的・身体的障がいについての理解を深めていく。	2前	16		○			○					
○			子育て支援	子育て支援・相談援助活動の基礎を習得し、援助展開における援助関係形成、援助課程各技術を効果的に活用するための理論と方法を身につける。	2後	16		○	△		○					
○			社会的養護Ⅱ	障害や虐待により人との信頼関係構築が難しい児童を支援するための知識や技能を習得させるとともに、施設養護観の形成を目指す。	2後	16		○	△		○					
○			保育実習事前事後指導Ⅰ(保育所)	実習に臨む心構えを作り、指導計画案の作成や実習日誌の書き方などに関わる知識と技術を身に付ける。実習後の総括と自己評価、新たな課題を明確にする。	2前	8			○		○					
○			保育実習事前事後指導Ⅰ(施設)	実習に臨む心構えを作り、指導計画案の作成や実習日誌の書き方などに関わる知識と技術を身に付ける。実習後の総括と自己評価、新たな課題を明確にする。	2後	8		○			○					
○			保育実習Ⅰ(保育)	保育現場で保育を経験することにより、学習してきた理論や技術が実践と具体的にどのように繋がるのか理解し、実践を通じて保育の技術、能力を向上させる。	2前	80				○		○			○	
○			ピアノ演習Ⅱ	教本「バイエル」より楽譜が読めるようになり、弾きこなす。音楽の実技により弾き歌いができるように実技指導を行う。	2通	130			○			○				
○			パソコン演習Ⅱ	表計算ソフト「Excel」を学び、サーティブアイExcel表計算処理検定合格を目指す。	2後	30		△	○			○				
○			基礎実践Ⅱ	保育者として求められるマナーや立ち居振る舞いの他に実習生としての基本的なビジネススキルやビジネス文書・冠婚葬祭について学習する。	2前	20		△	○			○				
○			保育研究Ⅱ	子どもを楽しませる技術を習得し実践する(パネルシアター作成・実演、手遊び、絵本の読み聞かせ、自己紹介グッズ)	2通	102			○			○				

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 こどもみらい総合科)令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			実習指導Ⅱ	保育実習Ⅰでの学びをもとに保育士として必要な資質・能力・技術を高め保育の実践力を養い保育実習Ⅱに向け準備を行う。	2通	128		△	△		○		○		
○			実務研究Ⅱ	本実習前に実践を通じて、保育の技術、能力を向上させ、2歳児未満の発達や関りを知る	2前	12				○		○	○		○
○			総合学習Ⅱ	「豊かな人間性」を育むため、学内外の様々な授業や行事を通して協調性・思いやり・気配り・積極性・感謝など自身の体験を通して身につける科目として位置付ける。	2通	162		△	○		○		○		
合計			2年次 単位時間		1,062		時間								
○			乳児保育	テキストや保育所保育指針、その他の参考資料を用いて、3歳未満の発達過程やその保育の意義を理解し、援助の方法を学ぶ。	3通	46		○	△		○		○	△	
○			保育・教職実践演習	これまでの学習と実習の成果を振り返りながら、保育者に求められる資質能力の習得を確認する。発表・議論・ロールプレイ、模擬保育等を組み合わせ行う。	3後	32		△	○		○			○	
○			子どもの保健	子どもの保健の意義がわかり、子どもを取り巻く最近の問題点及び今後の課題や発達段階各期の特徴を述べることができる。	3通	30		○	△		○			○	
○			保育の心理学	人格形成の基礎を築く乳幼児期の子どもに関わる保育者が「生涯発達」の視点で乳幼児期の発達を理解し、乳幼児の精神発達とその教育について考える。	3通	30		○			○			○	
○			子どもの健康と安全	子どもの健康は心身の健全な発育・発達が基本となることから保育者は専門的な知識と技術が求められる。子どもの健康と生命を守る為の実践力を身に付けることを目標とする。	3後	16		△		○	○			○	
○			保育実習事前指導Ⅱ	保育実習Ⅰでの学びをもとに保育士として必要な資質・能力・技術を高め保育の実践力を養い保育実習Ⅱに向け準備を行う。	3前	8		○	△		○			○	
○			保育内容総論	①保育内容の史的展開を踏まえ、保育所保育や子どもの育ちをめぐる現状と課題について説明できる。②保育の総合性を踏まえ、指導計画の立案・実施することができる。	3後	16		○		△	○			○	

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 こどもみらい総合科)令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			保育実習Ⅰ (施設)	保育所以外の児童福祉施設その他の社会福祉施設での実践と助言指導を通し、社会的養護に関する専門的な理解と知識・技術を学ぶ。	3前	80			○		○		○	○	
○			保育実習Ⅱ (保育)	保育実習Ⅰでの学びをもとに保育士として必要な資質・能力・技術を修得し、子育て支援能力、福祉ニーズの理解力・判断力を養い、福祉の視点を持った保育士養成をめざす。	3前	80			○		○		○	○	
○			教育実習Ⅰ・Ⅱ	幼稚園における教育内容や幼稚園の機能について、実習を通して理解し、部分実習または、全日実習の指導計画を立案する	3前	160			○		○		○	○	
○			保育実習指導Ⅱ	保育実習Ⅰでの学びをもとに保育士として必要な資質・能力・技術を高め保育の実践力を養い保育実習Ⅱに向け準備を行う。	3前	40		△	○		○		○		
○			施設実習指導	保育所以外の児童福祉施設その他の社会福祉施設の概要を知り社会的養護に関する理解を深め、各自の実習先に特化した事前学習と実習準備を行う。	3前	22		△	○		○		○		
○			教育実習指導	幼稚園の機能や内容、教育実習の目的や意義を理解し、習得した知識・技能を保育実習だけでなく教育実習に対する意欲や課題意識へと移行させ実習準備を行う。	3前	32		△	○		○		○		
○			ピアノ演習Ⅲ	実習や就職を見通し具体的な目標を持って子どもの歌の歌唱、伴奏、弾き歌いの技術を高め実践力を養う。	3通	50			○		○			○	
○			パソコン演習Ⅲ	就職を見通しパワーポイント操作や保育園だよりなどの文書作成の技術を高める。	3後	8			○		○		○		
○			志学Ⅱ	やりがいを持てる社会人生活を送る為に社会との繋がりの中で自分自身の生きる姿勢を探求し、各ロールモデルの中から自身の「志」を具体化させていく事を目指す。	3前	16		○	△		○		○		
○			親学	「親としての学び」「教育者としての親」について学習する事で、自身のこれまでの成長に「感謝」と共に礼儀や日本人としての矜持・誇りについて学ぶ事を目的とする。	3後	16		○			○		○		
○			保育研究Ⅲ	前期は実習で使用する自己紹介グッズや責任実習の使用物製作を行い、後期は保育発表会に向け製作や実技練習を行う。	3通	40			○		○		○		

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 こどもみらい総合科)令和4年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 時 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			総合学習Ⅲ	「豊かな人間性」を育むため、学内外の様々な授業や行事を通して協調性・思いやり・気配り・積極性・感謝など自身の体験を通して身につける科目として位置付ける。	3通	152	△	○		○		○		
○			保育発表会	3年間学んできた福祉・保育に関する知識・技能を活用しその集大成としての演劇をチームで作成する事により、これからの保育現場で更に発展させていく力を養う機会とする。	3後	66		○	△	○	△	○	△	
合計				3年次 単位時間		940	時間							

合計 77 科目	単位時間	3,086	時間	
----------	------	-------	----	--

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
【履修評価】 1. 評価は原則として科目ごとにその前期・後期終了時で其々の評価をする。 2. 評価は、平日の授業態度、確認テスト、出席率、ホームワーク状況、期末試験等によって行い、原則として絶対評価とする。 【学業成績】 学業成績の判定は優、良、可、不可の4種をもってこれを表し、優、良、可評価をもって履修とする。 優:科目に対する理解及び日常の授業態度及び出席状況が著しく優秀な者 良:科目に対する理解及び日常の授業態度及び出席状況が良好な者 可:科目に対する理解及び日常の授業態度及び出席状況がやや劣る者 不可:科目に対する理解及び日常の授業態度が著しく劣る者 【卒業】 本校に在学し、全ての科目において「可」以上の成績を修め、各学科設定の基準検定等を取得し、かつ総授業時間数の90%以上の履修を得た者に、卒業証書を授与する	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	26週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。